

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F134310109857	設置等組織名	工学部 電子情報システム工学科、電気エネルギーシステム工学科、機械情報工学科、情報学部 情報システム学科、情報マネジメント学科、環境学部 地球環境システム学科、食健康科学科
大学名	広島工業大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	広島県	事業計画名	ものづくり・デジタル・グリーン人材育成に向けた大学改革事業

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ 1	1-①令和5年8月 学科設置に係る検討特別委員会を設置する。 1-②令和5年8月 新設の学科に係る3つのポリシー策定、教育課程の編成、教員配置の検討を行う。 1-③令和5年8月 採用予定教員の募集活動を行う。 1-④令和5年8月 学生の確保の見通し及び人材需要の調査を開始。 1-⑤令和5年8月 新設学科棟新築工事の実施設計、建築申請等の作成を行う。 1-⑥令和5年10月 学内諸規定の改正（案）の策定を行う。 1-⑦令和5年10月 外部評価委員会との意見交換会を実施する。 1-⑧令和5年10月 認可・届出申請書の作成を行う。 1-⑨令和5年11月 大学設置・学校法人審議会設置分科会運営委員会に事前相談を行う。 1-⑩令和6年2月 新設学科の広報活動を開始する。	1-②令和5年8月 新設の学科に係る3つのポリシー策定、教育課程の編成、教員配置の検討を開始。 1-③令和5年8月 採用予定教員の募集活動を開始。 1-④令和5年8月 学生の確保の見通し及び人材需要の調査を開始。 1-⑤令和5年8月 新設学科棟新築工事の実施設計、建築申請等の作成を開始。 1-①令和5年9月 学科設置に係る検討特別委員会を設置、開催。 1-⑥令和5年10月 学内諸規定の改正（案）の策定を開始。 1-⑦令和5年10月 外部評価委員会との意見交換会を実施。 1-⑧令和5年10月 認可・届出申請書の作成を開始。 1-⑨令和5年11月 大学設置・学校法人審議会設置分科会運営委員会に事前相談を実施。 1-⑩令和6年2月 新設学科の広報活動を開始。 1-⑬令和6年2月 学生の確保の見通し及び人材需要の調査を実施。 【改組内容】 令和7年 工学部電子情報システム工学科について、学科名を工学部電子情報工学科に変更して検討中 令和7年 工学部電気エネルギーシステム工学科について、学科名を工学部電気システム工学科に変更して検討中 令和7年 環境学部地球環境システム学科について、学科名を環境学部地球環境学科に変更して検討中	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 令和7年 学生募集戦略の観点から工学部電子情報システム工学科の学科名を工学部電子情報工学科に変更。 学生募集戦略の観点から工学部電気エネルギーシステム工学科の学科名を工学部電気システム工学科に変更。 学生募集戦略の観点から環境学部地球環境システム学科の学科名を環境学部地球環境学科に変更。
		1-①令和6年4月 新設学科の設置届書類を作成する。（R7.3.31承認） 1-②令和6年6月 収容定員に係る学則変更の認可申請書類を作成する。（R7.3.31承認） 1-③令和6年6月 新設学科の募集活動を開始する。（R7.3.31承認） 1-④令和7年3月 成長戦略をテーマとした高校生等向け公開シンポジウムを実施する。（R7.3.31承認）	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	フェーズ 2 前倒し		○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和6年4月 工学部電子情報システム工学科 学科の設置届出予定 令和6年4月 工学部電気エネルギーシステム工学科 学科の設置届出予定 令和6年4月 工学部機械情報工学科 学科の設置届出予定 令和6年4月 情報学部情報システム学科 学科の設置届出予定 令和6年4月 情報学部情報マネジメント学科 学科の設置届出予定 令和6年4月 環境学部地球環境システム学科 学科の設置届出予定 令和6年4月 環境学部食健康科学科 学科の設置届出予定 令和6年6月 収容定員の総数の増加 認可申請予定	令和6年4月 工学部電子情報工学科 学科の設置届 令和6年4月 工学部電気システム工学科 学科の設置届 令和6年4月 工学部機械情報工学科 学科の設置届 令和6年4月 情報学部情報システム学科 学科の設置届 令和6年4月 情報学部情報マネジメント学科 学科の設置届 令和6年4月 環境学部地球環境学科 学科の設置届 令和6年4月 環境学部食健康科学科 学科の設置届 令和6年6月 収容定員の総数の増加 認可申請		

フェーズ1 後倒し	1-⑪令和6年6月 新設学科の募集活動を開始する。 1-⑫令和6年8月 成長戦略をテーマとした高校生等向け公開シンポジウムを実施する。	・フェーズ1に記載（R7.3.31承認）	R6年度自己 評価	【3】計画を十分に実施している。
フェーズ2	2-①令和6年9月 新設学科棟新築工事の設計を完了する。 2-②令和6年10月 新設学科棟新築工事を開始する。（21か月工期） 2-③令和7年1月 新設学科が用いる既存の建物改修工事を開始する。（3か月工期） 2-④令和7年3月 新設の学科に係る設備・備品を購入、据付工事等を実施する。（先行設置分第1期）	2-①令和6年11月 新設学科棟新築工事の設計を完了する。（R7.3.31承認） 2-②令和7年2月 新設学科棟新築工事を開始する。（21か月工期）（R7.3.31承認） 2-③令和7年1月 新設学科が用いる既存の建物改修工事を開始する。（3か月工期） 2-④令和7年3月 新設の学科に係る設備・備品を購入、据付工事等を実施する。（先行設置分第1期）	R6年度自己 評価	【3】計画を十分に実施している。

開設 又は定員増	開設又は定員増	令和7年4月 工学部電子情報システム工学科開設予定（入学定員110人、工学関係・保健衛生学関係） 令和7年4月 工学部電気エネルギーシステム工学科開設予定（入学定員110人、工学関係） 令和7年4月 工学部機械情報工学科開設予定（入学定員120人、工学関係） 令和7年4月 情報学部情報システム学科開設予定（入学定員80人、工学関係） 令和7年4月 情報学部情報マネジメント学科開設予定（入学定員80人、工学関係・経済学関係） 令和7年4月 環境学部地球環境システム学科開設予定（入学定員100人、工学関係・理学関係） 令和7年4月 環境学部食健康科学科開設予定（入学定員90人、工学関係・農学関係）	令和7年4月 工学部 電子情報工学科 開設（入学定員110人、工学関係・保健衛生学関係） 令和7年4月 工学部 電気システム工学科 開設（入学定員110人、工学関係） 令和7年4月 工学部機械情報工学科開設（入学定員120人、工学関係） 令和7年4月 情報学部情報システム学科開設（入学定員80人、工学関係） 令和7年4月 情報学部情報マネジメント学科開設（入学定員80人、工学関係・経済学関係） 令和7年4月 環境学部 地球環境学科 開設（入学定員100人、工学関係・理学関係） 令和7年4月 環境学部食健康科学科開設（入学定員90人、工学関係・農学関係）		
		令和8年3月 令和新設の学科に係る設備・備品を購入、据付工事等を実施する。（先行設置分第2期） 令和8年6月 新設学科棟の新築工事を完成する。 令和8年10月 新設学科棟の供用を開始する。	令和9年3月 新設の学科に係る設備・備品を購入、据付工事等を実施する。（先行設置分第2期）（ R7.3.31承認 ） 令和9年3月 新設学科棟の新築工事を完成する。（ R7.3.31承認 ） 令和9年4月 新設学科棟の供用を開始する。（ R7.3.31承認 ）	○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 後編し	フェーズ2後編し	3-①令和7年4月 新設学科入学生へ成長戦略関連企業による説明会を実施する。 3-②令和7年6月 新設学科の広報活動（セミナー、高校内説明等）を行う。 3-③令和7年8月 新設学科に関する公開フォーラム（第1回）を実施する。 3-④令和7年9月 新設学科の教育活動について学外識者及び地域関係者との意見交換会を実施する。 3-⑤令和8年6月 新設学科の広報活動（セミナー、高校内説明等）を行う。 3-⑥令和8年8月 新設学科に関する公開フォーラム（第2回）を実施する。 3-⑦令和8年9月 新設学科の教育活動について学外識者及び地域関係者との意見交換会を実施する。 3-⑧令和9年6月 新設学科の広報活動（セミナー、高校内説明等）を行う。 3-⑨令和9年8月 新設学科に関する公開フォーラム（第3回）を実施する。 3-⑩令和9年9月 新設学科の教育活動について学外識者及び地域関係者との意見交換会を実施する。 3-⑪令和10年6月 新設学科の広報活動（セミナー、高校内説明等）を行う。 3-⑫令和10年12月 新設学科の教育活動について学外識者及び地域関係者との意見交換会を実施する。 3-⑬令和10年3月 本強化支援事業にかかる実施報告書の作成、配付を行う。	3-①令和7年6月 新設学科の広報活動（セミナー、高校内説明等）を行う。（ R7.3.31承認 ） 3-②令和7年8月 新設学科に関する公開フォーラム（第1回）を実施する。（ R7.3.31承認 ） 3-③令和7年9月 新設学科の教育活動について学外識者及び地域関係者との意見交換会を実施する。（ R7.3.31承認 ） 3-④令和8年6月 新設学科の広報活動（セミナー、高校内説明等）を行う。（ R7.3.31承認 ） 3-⑤令和8年8月 新設学科に関する公開フォーラム（第2回）を実施する。（ R7.3.31承認 ） 3-⑥令和8年9月 新設学科の教育活動について学外識者及び地域関係者との意見交換会を実施する。（ R7.3.31承認 ） 3-⑦令和9年6月 新設学科の広報活動（セミナー、高校内説明等）を行う。（ R7.3.31承認 ） 3-⑧令和9年8月 新設学科に関する公開フォーラム（第3回）を実施する。（ R7.3.31承認 ） 3-⑨令和9年9月 新設学科の教育活動について学外識者及び地域関係者との意見交換会を実施する。（ R7.3.31承認 ） 3-⑩令和10年6月 新設学科の広報活動（セミナー、高校内説明等）を行う。（ R7.3.31承認 ） 3-⑪令和10年12月 新設学科の教育活動について学外識者及び地域関係者との意見交換会を実施する。（ R7.3.31承認 ） 3-⑫令和10年3月 本強化支援事業にかかる実施報告書の作成、配付を行う。（ R7.3.31承認 ）	○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	定員減又は学部等の廃止	令和6年5月 工学部電子情報工学科学生募集停止の報告予定（入学定員90人、工学関係） 令和6年5月 工学部電気システム工学科学生募集停止の報告予定（入学定員90人、工学関係） 令和6年5月 工学部機械システム工学科学生募集停止の報告予定（入学定員110人、工学関係） 令和6年5月 工学部知能機械工学科学生募集停止の報告予定（入学定員80人、工学関係） 令和6年5月 情報学部情報コミュニケーション学科学生募集停止の報告予定（入学定員110人、工学関係） 令和6年5月 環境学部地球環境学科学生募集停止の報告予定（入学定員70人、工学関係・理学関係） 令和6年5月 生命学部生体医工学科学生募集停止の報告予定（入学定員60人、工学関係・保健衛生学関係） 令和6年5月 生命学部食品生命科学科学生募集停止の報告予定（入学定員60人、工学関係・農学関係） 令和7年4月 工学部電子情報工学科学生募集停止の予定（入学定員90人、工学関係） 令和7年4月 工学部電気システム工学科学生募集停止の予定（入学定員90人、工学関係） 令和7年4月 工学部機械システム工学科学生募集停止の予定（入学定員110人、工学関係） 令和7年4月 工学部知能機械工学科学生募集停止の予定（入学定員80人、工学関係） 令和7年4月 情報学部情報コミュニケーション学科学生募集停止の予定（入学定員110人、工学関係・経済学関係） 令和7年4月 環境学部地球環境学科学生募集停止の予定（入学定員70人、工学関係・理学関係） 令和7年4月 生命学部生体医工学科学生募集停止の予定（入学定員60人、工学関係・保健衛生学関係） 令和7年4月 生成学部食品生命科学科学生募集停止の予定（入学定員60人、工学関係・農学関係）	令和6年12月 工学部電子情報工学科学生募集停止の報告（入学定員90人、工学関係） 令和6年12月 工学部電気システム工学科学生募集停止の報告（入学定員90人、工学関係） 令和6年12月 工学部機械システム工学科学生募集停止の報告（入学定員110人、工学関係） 令和6年12月 工学部知能機械工学科学生募集停止の報告（入学定員80人、工学関係） 令和6年12月 情報学部情報コミュニケーション学科学生募集停止の報告（入学定員110人、工学関係・経済学関係） 令和6年12月 環境学部地球環境学科学生募集停止の報告（入学定員70人、工学関係・理学関係） 令和6年12月 生命学部生体医工学科学生募集停止の報告（入学定員60人、工学関係・保健衛生学関係） 令和6年12月 生成学部食品生命科学科学生募集停止の報告（入学定員60人、工学関係・農学関係） 令和7年4月 工学部電子情報工学科学生募集停止（入学定員90人、工学関係） 令和7年4月 工学部電気システム工学科学生募集停止（入学定員90人、工学関係） 令和7年4月 工学部機械システム工学科学生募集停止（入学定員110人、工学関係） 令和7年4月 工学部知能機械工学科学生募集停止（入学定員80人、工学関係） 令和7年4月 情報学部情報コミュニケーション学科学生募集停止（入学定員110人、工学関係・経済学関係） 令和7年4月 環境学部地球環境学科学生募集停止（入学定員70人、工学関係・理学関係） 令和7年4月 生命学部生体医工学科学生募集停止（入学定員60人、工学関係・保健衛生学関係） 令和7年4月 生成学部食品生命科学科学生募集停止（入学定員60人、工学関係・農学関係）		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	広島工業大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	広島工業大学
-------------	-------	-----	--------

⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	■ チェック
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	広島工業大学
-------------	-------	-----	--------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック

⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック

⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（関係開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では社会で活躍するために必要な実践力を備えた人材育成に当たり、各学科における学びと関連が強い企業の方を外部講師として招き、令和4年度より「地域や企業と連携した社会実践プロジェクト(PBL形式の課題解決実習)」を企画・実施している。令和5年度は各学科で2件以上のプロジェクトを企画し、学生のインターンシップ、専門分野の研究、卒業後の就業にもつなげていく予定である。その他、学部学科横断で進められる授業科目「地域課題解決実習」も開講し、企業・自治体等と連携した授業科目群を充実させている。直近3年間で計14社の地元企業／団体／自治体と包括的連携協定を締結して教育・人材育成を進め、その中でも広島県との包括的連携協定の締結により、さまざまな社会課題に触れる機会を増やしている。今後これらの課題を題材とした地元企業／団体／自治体との教育連携を強化していく予定である。 新設学科では、広島県の立地や地域産業の強みを生かし、自動車・農業・漁業・スポーツ・流通・地域観光などの分野を考慮しつつ、ものづくり・まちづくり・からだづくりから未来社会創造に関わるさまざまな課題の解決に、デジタルやグリーンなどの高度専門技術を活用できる教育体制を整備していく計画である。	・地域や企業と連携した社会実践プロジェクト(PBL形式の課題解決実習) 全ての学科で合計25件の社会実践プロジェクト(PBL形式の課題解決実習)を実施した。 ・学部学科横断で進められる授業科目「地域課題解決実習」 「地域課題解決実習」として次の3つのテーマで実施した。 ①企業（モノづくりの現場改善）、②宮島地区宮島町屋の保存と活用、③広島の地域資源を活かしたビジネス・サービス・プロダクトデザイン ・広島県との包括的連携協定の締結 広島県との間で、ひろしまで活躍できる専門性の高い技術系人材の育成・デジタル技術等を活用したさまざまな地域課題の解決を目的として、包括的連携協定を締結しており、令和5年度は以下の取り組み等を実施した。 ①広島での活躍の場を知る「ひろしま業界研究講座」や「ものづくり中小企業のIoT導入事例」などの講義の実施 ②特定分野の複数企業の就業体験を実現する「パッケージ型インターンシッププログラム」の共同開発・実施 ③リモートセンシングを活用した防災関連課題の解決に向けた情報交換会の開催 ④県内大学生・社会人等を対象としたAI・データサイエンスに関する公開講座の開催	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	広島工業大学
-------------	-------	-----	--------

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☐ チェック
- ☒ チェック
- ☒ チェック
- ☐ チェック
- ☐ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生の確保について、本学では平成19年から女子学生キャリアデザインセンターを創設し、女子学生の支援を継続的に行っている。近年では、改めて理工学分野における女性の活躍に期待が高まっていることから、令和6年度入学者選抜から全学科を対象とした学校推薦型選抜（女子特別選抜）を新設するとともに、近隣の女子高等学校を対象とした体験学習講座を開催し連携を強化している。 地域の初等中等教育段階の学校との連携については、小学生を対象とした「①ものづくり教室」、小中学生を対象とした「②プログラミング教室や理科実験教室」、そして高校生を対象とした「③探究学習講座」「④大学体験講座」等を継続的に行っている。 ①②は教職員指導のもと学生主体で開催している。③は教員が高校に出向く対面指導、メール等によるオンライン指導、成果発表会への参加・講評等を実施している。④は連携協定を締結している高校の生徒を大学に招待し、授業参加や体験実習等を行い成果をあげている。今後、新設学科の学びやキャリアについて考えるワークショップも開催していく。 さらに、成長分野の人材を養成するにあたり、公開シンポジウムを開催し、高校生や保護者のみならず地域社会に対し、成長分野についての理解を深める機会を設ける。	・令和5年度の女子学生キャリアデザインセンターの取組 令和5年度運営体制：センター長1人を含む教育職員11人、事務職員13人、学生幹事団13人。 令和5年度の課外活動：PBL型プロジェクト11テーマから学内29件及び学外 60件の合計89件実施。 令和5年度新入学生139名における新規活動参加者：54%（75名）。 女子学生就職率100.0% ・学校推薦型選抜（女子特別選抜）の創設 令和6年度入学者選抜において、学校推薦型選抜（女子特別選抜）を創設した。 学校推薦型選抜（女子特別選抜）入試得点率上位3位の者に500,000円給付する「女性エンジニア育成奨励金」制度を創設した。 ・女子高等学校を対象とした体験学習講座の開催 山陽女学園高等部との高大連携授業を3回実施した。 ・地域の初等中等教育段階の学校との連携 ①ものづくり教室 小中学生を対象に「ワクワクものづくり大作戦」を実施した。 ②プログラミング教室や理科実験教室 全国選抜小学生プログラミング大会広島県大会を開催した。（中国新聞社） 女子学生キャリアデザインセンターが、出張理科実験教室を3回、プログラミング教室を4回（五日市中央公民館、五月が丘公民館）、瀬戸内海共生プロジェクト環境教室等2回（五日市観音小学校）を開催した。 ③探究学習講座 県立廿日市高等学校、県立広島工業高等学校、広島工業大学高等学校で開催した。 ④大学体験講座 一般社団法人教育ネットワーク中国と連携しシティカレッジとして4講座を提供した。 ・公開シンポジウム 高校生を含む一般市民を対象として公開シンポジウムを1回開催した。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	広島工業大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	確認を受けている	
	確認の対象に該当しない	
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	情報学部 情報システム学科は入学定員を充足した。一方で工学部 電子情報工学科、電気システム工学科、機械情報工学科、情報学部 情報マネジメント学科、環境学部 地球環境学科及び食健康科学科の入学定員を充足できなかった。広島県の若年層の流出全国ワースト1など、本学を取り巻く状況が厳しい中、学部・学科改組の届出（令和6年4月下旬）以降に学生募集に係る広報活動を本格化させたが、大規模な改組の内容や新学科の魅力を高校生へ十分に伝えることができなかった。 今後は、令和8年度の学生募集に向けて、入学定員の充足とそための一層の志願者確保に努めるべく、特に広報活動の早期化を図るため、学校案内の作成を前倒しするとともに、オープンキャンパス実施日程の変更を行う。そして学生の修学に係る経済的支援の充実や入学検定料の減額等、志願者・入学者確保につながる施策を検討・実施していく。 また、入学定員を充足できなかった工学部 電気システム工学科、環境学部 食健康科学科については、入学定員の減員を、多くの志願者を獲得し、入学定員を充足した情報学部 情報システム学科については、入学定員の増員を文部科学省へ届け出た。併せて、大学改革支援・学位授与機構に対し、入学定員の変更に係る大学・高専成長分野転換支援基金助成金計画変更承認申請書を提出した。
	計画通りに進んでいる	☐ チェック
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）	
	計画通りに進んでいる	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	広島工業大学
-------------	-------	-----	--------

④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	■ チェック
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	広島工業大学
-------------	-------	-----	--------

⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せた水準以上とする計画であること。	令和6年度の外部資金獲得額について、本事業の支援額の2.5%を上乗せた水準に届かなかった。 今後は、寄付金・科学研究費助成事業及び奨学寄付金・受託研究費獲得に係る施策に取組む予定である。 次年度は、学校法人鶴学園の周年事業と連動した寄付金募集の強化を行うほか、科学研究費助成事業の応募促進に向けた外部コンテンツの導入及び様々な機会を利用して企業との連携を訴えるなど奨学寄付金・受託研究費の募集に力を入れていく。
	計画通りに進んでいる	☐ チェック

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック

⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック

⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では社会で活躍するために必要な実践力を備えた人材育成に当たり、各学科における学びと関連が強い企業の方を外部講師として招き、令和4年度より「地域や企業と連携した社会実践プロジェクト(PBL形式の課題解決実習)」を企画・実施している。令和5年度は各学科で2件以上のプロジェクトを企画し、学生のインターンシップ、専門分野の研究、卒業後の就業にもつながっていく予定である。その他、学部学科横断で進められる授業科目「地域課題解決実習」も開講し、企業・自治体等と連携した授業科目群を充実させている。直近3年間で計14社の地元企業／団体／自治体と包括的連携協定を締結して教育・人材育成を進め、その中でも広島県との包括的連携協定の締結により、さまざまな社会課題に触れる機会を増やしている。今後これらの課題を題材とした地元企業／団体／自治体との教育連携を強化していく予定である。 新設学科では、広島県の立地や地域産業の強みを生かし、自動車・農業・漁業・スポーツ・流通・地域観光などの分野を考慮しつつ、ものづくり・まちづくり・からだづくりから未来社会創造に関わるさまざまな課題の解決に、デジタルやグリーンなどの高度専門技術を活用できる教育体制を整備していく計画である。	・地域や企業と連携した社会実践プロジェクト(PBL形式の課題解決実習) 全ての学科で合計34件の社会実践プロジェクト(PBL形式の課題解決実習)を実施した。 ・学部学科横断で進められる授業科目「地域課題解決実習」 「地域課題解決実習」として次の3つのテーマで実施した。 ①企業（モノづくりの現場改善）、②宮島地区宮島町屋の保存と活用、③広島の地域資源を活かしたビジネス・サービス・プロダクトデザイン ・広島県との包括的連携協定の締結 広島県との間で、ひろしまで活躍できる専門性の高い技術系人材の育成・デジタル技術等を活用したさまざまな地域課題の解決を目的として、包括的連携協定を締結しており、令和6年度は以下の取り組み等を実施した。 ①広島での活躍の場を知る「ひろしま業界研究講座」の講義の実施 ②特定分野の複数企業の就業体験を実現する「パッケージ型インターンシッププログラム」の共同開発・実施 ③衛星リモートセンシング活用報告会の開催 ④県内大学生・社会人等を対象としたAI・データサイエンスに関する公開講座の開催	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	広島工業大学
-------------	-------	-----	--------

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☐ チェック
- ☒ チェック
- ☒ チェック
- ☐ チェック
- ☐ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスクリングへの対応）
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生の確保について、本学では平成19年から女子学生キャリアデザインセンターを創設し、女子学生の支援を継続的に行っている。近年では、改めて理工学分野における女性の活躍に期待が高まっていることから、令和6年度入学者選抜から全学科を対象とした学校推薦型選抜（女子特別選抜）を新設するとともに、近隣の女子高等学校を対象とした体験学習講座を開催し連携を強化している。 地域の初等中等教育段階の学校との連携については、小学生を対象とした「①ものづくり教室」、小中学生を対象とした「②プログラミング教室や理科実験教室」、そして高校生を対象とした「③探究学習講座」「④大学体験講座」等を継続的に行っている。 ①②は教職員指導のもと学生主体で開催している。③は教員が高校に出向く対面指導、メール等によるオンライン指導、成果発表会への参加・講評等を実施している。④は連携協定を締結している高校の生徒を大学に招待し、授業参加や体験実習等を行い成果をあげている。今後、新設学科の学びやキャリアについて考えるワークショップも開催していく。 さらに、成長分野の人材を養成するにあたり、公開シンポジウムを開催し、高校生や保護者のみならず地域社会に対し、成長分野についての理解を深める機会を設ける。	・令和6年度の女子学生キャリアデザインセンターの取組 令和6年度運営体制：センター長1人を含む教育職員13人、事務職員12人、学生幹事団12人。 令和6年度の課外活動：PBL型プロジェクト12テーマから学内28件及び学外55件の合計83件実施。 令和6年度新入学生131名における新規活動参加者：51.9%（68名）。 女子学生就職率100.0% ・学校推薦型選抜（女子特別選抜）の創設 令和6年度入学者選抜において、学校推薦型選抜（女子特別選抜）を創設し、得点率上位3位の者に500,000円給付する「女性エンジニア育成奨励金」制度を創設した。 令和7年度入学者選抜において、学校推薦型選抜（女子特別選抜）に44人の志願があり16人入学した。入学者の内10人が「助成エンジニア育成奨励金」の対象となった。 ・女子高等学校を対象とした体験学習講座の開催 近隣の女子高等学校を対象とした体験学習講座の実施に至らなかった。 ・地域の初等中等教育段階の学校との連携 ①ものづくり教室 小学生を対象とした「ワクワクものづくり大作戦」を実施予定であったが台風接近に伴い中止した。 ②プログラミング教室や理科実験教室 全国選抜小学生プログラミング大会広島県大会を開催した。（中国新聞社） 女子学生キャリアデザインセンターが、出張理科実験教室を1回（八幡東公民館）、プログラミング教室を2回（五日市中央公民館、本学）、瀬戸内海共生プロジェクト環境教室等2回（五日市観音小学校）を開催した。 ③探究学習講座 附属高校である広島工業大学高等学校を始めとして、広島県立廿日市高等学校、広島県立広島工業高等学校、広島市立舟入高等学校、広島県立尾道東高等学校で開催した。特に岡山県立倉敷古城池高等学校では総合的な探究の時間（古城池タイム＝KT）等を活用した取組みに協力し、産官学民の連携組織である「水島プラットフォーム」を立ち上げに協力している。その他、県内外の9高校と高大連携事業に取組んだ。 ④大学体験講座 一般社団法人教育ネットワーク中国と連携しシティカレッジとして4講座を提供した。 公開講座を6講座実施した。 ・公開シンポジウム 高校生を含む一般市民を対象として公開シンポジウムを1回開催した。	近隣の女子高等学校での体験学習講座を企画し、その実施を申し入れたがスケジュールが合致せず、実施に至らなかった。

大学名	広島工業大学
-----	--------

1. 本事業対象となる学部等の状況

<合計>

[illegible]

大学名	広島工業大学
-----	--------

改組内容	既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
------	---

学部学科名 情報学部情報システム学科

[illegible]

大学名	広島工業大学
-----	--------

改組内容	既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
------	---

学部学科名	環境学部地球環境学科
-------	------------

[illegible]

大学名	広島工業大学
-----	--------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	広島工業大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1080	1080	1100																
		入学者数	人	1086	995	1014																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,080	1,080	1,100																
		入学者数(B)	人	1,086	995	1,014																
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.01	0.92	0.92																
	収容定員等	収容定員(C)	人	4320	4320	4340																
		編入学定員	人	***	***	0																
		在籍者数(D)	人	4338	4215	4135																
		編入学者数	人	***	***	***																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.00	0.98	0.95																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定	開設												
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		129,986	105,376	116,306	123,546	95,713	103,692	109,686												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）（E）	千円	115,076
本事業による助成金の額(F)	千円	2,569,086
フェーズ3の助成期間終了時まで達成する額(E+F×2.5%)	千円	179,303

特記事項

全学部全学科の令和6年度の編入学定員0人とは、若干名を意味している。